

# 起業家支援財団 事務局通信 NO.5



経営道場 最終報告会にて、「わが社の経営を語る」「わが社をこう変える」を課題に取り組んだ半年間の成果を発表した。(3月8日)

発行日 平成 21 年 4 月 28 日 (火)  
発行 財団法人起業家支援財団  
事務局 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-12-1  
TEL 045-306-5574 FAX 045-350-2617  
www.shienzaidan.or.jp info@shienzaidan.or.jp  
発行責任者 菱山昌洋 編集 治田友香

3月8日に「経営道場'08」は無事修了いたしました。昨年10月10日から11回のカリキュラムで開講し、23歳から48歳という幅広い構成の受講生の方々には各回熱心にご参加いただきました。今年度は9月開講の予定で、現在カリキュラムを検討中です。

今回は平成21年度一四半期の報告をいたします。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。(専務理事・菱山)

## ◆◆◆事務局報告◆◆◆

### ■「ビジネス感性を磨く経営道場'08」修了

当財団およびNPO創業支援機構が主催する『経営道場'08』の最終報告会は、3月8日に神奈川中小企業センター会議室(関内)で行いました。朝10時から夕方6時まで、受講生一人一人からプレゼンテーションをしていただき、質疑応答をするという流れで実施し、ランチミーティングでは吉川智教氏〔早稲田大学ベンチャースクール教授〕より、『21世紀のイノベーションとベンチャー』をテーマにご講演いただきました。

合宿も含め半年間にわたって交流がありましたので、緊張感の中にもなごやかな意見交換がなされました。

受講生に加えて、トータルコーディネーターの大島昭浩氏、講師をお引き受けいただいた高橋義仁氏、渡辺敏喜氏、財団およびNPO関係者が参加しました。

後日、受講生の方々にアンケートを取らせていただきました。その中から抜粋して、受講しての感想などをご紹介します。

#### ○講義・講演について

- ー経営者のお話を少人数で聞けるスタイルはたいへんよかった。
- ー住職や作家の方のお話など、日頃接する以外の方からの講演が刺激になった。
- ーマーケティングの講義が役に立った。
- ーマーケティング・組織論にもっと時間をかけてほしかった。
- ー講師→受講生という一方的な講義ではなく、受講生間のコミュニケーションが図られていた点が良かった。
- ー工場見学なども採り入れてもいいのでは。

#### ○課題として出されていた「わが社の経営を語る」

「わが社をこう変える」の作成について

- ー異業種の方に業界の特性、さらには自社の事業内容と課題を伝える作業が難しく感じた。
- ー課題に対して、客観的に分析することができたのが有効だった。

ご回答いただきありがとうございました。



ランチミーティングでご講義いただいた早稲田大学ベンチャースクール吉川智教教授

**TOPICS** かながわ“キラリ”チャレンジャー大賞の授賞式が2月14日に開かれ、第1期奨学生の速水浩平さん〔㈱音力発電〕が大賞を受賞しました。

また、第9回バイオビジネスコンペ JAPAN〔主催：バイオビジネスコンペ JAPAN 委員会〕では3月16日に本選会が開かれ、第1期奨学生の関山和秀さん〔スパイパー ㈱〕がグランプリを受賞しました。

■ 学生起業塾 実施報告

【8回】

起業家支援財団およびNPO 創業支援機構の第1期奨学生を対象にした学生起業塾の第8回目(3月2日、関東学院大学横浜メディアビジネスセンターにて実施)は、第1期奨学生の成果報告会を兼ねて実施しました。奨学生、NPO および財団関係者など総勢40名が参加しました。

第1部は藤倉潤一郎氏〔プラットフォームサービス株式会社代表取締役〕による講演、第2部は第1期奨学生の成果報告会、理事長による訓話、その後懇談会を行いました。

藤倉氏には『地域貢献をビジネスにする～ソーシャルビジネスの可能性と展望～』と題してご講演いただいた。ちよだプラットフォームの取り組み、非営利型株式会社による自律的施設運営のコンセプトの解説、社会的事業家の使命や、ワークライフバランスの考え方など示唆に富んだお話をいただきました。

第1期奨学生の成果報告会後の松井理事長からは、経営者となる心得についてお話がなされました。①経営者たるもの総合力、つまり人間力が必要②人間関係、また思いやりの心が大切③明るくさわやかに挨拶すること④いい仲間をつくること。参加した奨学生からは、「自分を見直すきっかけとなった」といった感想が多く寄せられました。



学生起業塾(第8回)。第1期奨学生8名が1年間の活動を報告した。



藤倉潤一郎氏。プレゼン資料の完成度の高さ、新たなコンセプトを行政などに提示する姿勢に奨学生は大いに刺激を受けた。

【9回】

第2期奨学生を迎えて、4月24日(金)に通算9回目となる学生起業塾を開催しました。24名の学生が参加し、熱心な意見交換が行われました。

講演では、株式会社ミチコーポレーション(東京都西東京市)の植田紘栄志代表取締役より、同社の中心事業である、ぞうのウンチで作った紙=「ぞうさんペーパー」のビジネスに至るまでのご自身のキャリアを中心にお話しいただきました。そもそもぞうやスリランカの自然を守るといった環境保護を意図して始めたわけではなく、その時々で導かれて現在の事業に至ったとのことで、その経緯を丁寧に語られました。

「ぞうさんペーパー」を製造し販売することは、ぞうが生きていける環境を守り、かつ現地の人の雇用の確保に繋がるなど、一石二鳥のビジネスであり、本ビジネスにおいて重要なのは、人の共感を得ることであることが強調されました。

そして、経験が全ての源泉になっていること、考えるだけでなく行動することで次の道が拓けるなど、ビジネスを進めるうえでのいくつかの示唆が与えられました。

質疑応答においては、「環境のためという半端な気持ちでやったのでは一般市場では戦えない」など、環境ビジネスという難しい領域で事業を行う際の心構えや考え方が披露されました。



ぞうさんペーパー誕生までの足跡を淡々と語る植田紘栄志氏。その語り口に参加者は引き込まれた。

講演に続いて、参加者が3グループに分かれて、グループディスカッションを行いました。終了後は場所を移して懇談会を行いました。予定時間の2時間はあっという間に過ぎ、奨学生同士が思い思いに情報交換し、交流を深めました。

次回は、6月19日(金)を予定しています。

■ 平成21年度第1回通常理事会ならびに通常評議員会を開催

2月24日、ホテルキャメロットジャパン(横浜)にて標記の会議を行い、次の議事が満場一致で承認されました。

- (1) 平成20年度の事業報告及び収支決算について
- (2) 奨学生選考委員会委員選任について
- (3) 特定非営利活動法人創業支援機構との業務委託契約の改定について

評議員と理事が参加しての昼食会では相互に活発な情報交換がなされ、それぞれの会議では役員の方々の取り組みが紹介され、財団の事業に対してたいへん有効なアドバイスを得ることができました。

なお当財団は、公益もしくは一般財団法人に移行について検討を開始しました。加えて、財団の組織基盤の確立と中期運営計画を策定するため、中期運営計画策定委員会を設置し、多方面からの意見をいただき、財団活動の基盤整備を進めていきます。

編集後記

○2月14日に横浜シンポジアで行われた、かながわ“キラリ”チャレンジャー大賞の表彰式では、敢闘賞(財団賞)として、新城直氏〔株式会社ナレッジクリエーション代表取締役〕、飯田誠氏〔特定非営利活動法人でっかいそら理事長〕のお二人を表彰いたしました。今後のご活躍に期待しております。

○この四半期は昨年度から引き続きの事業(学生起業塾・経営道場)が節目を迎えた期間でした。経営道場の受講生ならびに第1期奨学生にアンケートをとらせていただきました。いただいた回答に励まされたり、恐縮したり、至らなかつた点を反省したりしています。この経験をよりよい事業の実現につなげていきたいと、心を新たにしております。

○4月より新しいスタッフ、山岡義卓さんを迎えました。主として学生起業塾を担当します。よろしくお祈りします。